

# 公園をみる・観る

## = 周防大橋からクロツラヘラサギを想う =

好天に恵まれた5月半ば県道25号線を車で走った。たいした目的はない。強いて言えば周防大橋から波多瀬を観たいから。

阿知須方面から橋を渡って行くと左手、山口市から流れてきた榎野川が山口湾に注ぐ手前に一塊の岩が顔を出している。11月ごろになると韓国からクロツラヘラサギが越冬にやってくることで最近注目を集めている波多瀬だ。クロツラヘラサギはサギと名付けられているがサギではなくトキの仲間である。2010年代までは世界中に2700羽



くらいしか生息せず絶滅危惧種とされた。繁殖地の韓国では自然保護団体が保護を呼びかけていた。保護のための国際シンポジウムも開かれ、公園のレンジャーが山口県での越冬状況を報告するために出席した。葦の会12名はクロツラヘラサギ祭りとシンポジウムに参加し韓国のクロツラヘラサギ保護事情をつぶさに見学し、クロツラヘラサギ保全とネットワーク構築に賛同署名した。こうした保護団体の活動が実を結んだのか近年クロツラヘラサギは増え始めているらしい。越冬地は東南アジアが主流だったが、2000年代に入り日本にもやってくるようになった。公園でも開園以来、山口湾での飛来数の統計をとっていたが、次第にその数が増し昨秋には最多期で20羽がこの波多瀬周辺で暮らし、今春帰国して行った。

波多瀬はそのたまたまが韓国・カンファドの自然繁殖地の島々に似ている。最近この波多瀬をクロツラヘラサギの越冬地だけではなく繁殖地にもしたいという構想があることを仄聞した。繁殖環境を整えて営巣しやすくすると繁殖を始める可能性が高く、又韓国からクロツラヘラサギを譲り受け山口湾周辺に放鳥すればさらに繁殖の可能性が高まると期待される。そうすれば山口湾が日本で初めてのクロツラヘラサギの繁殖地になり、年間を通じて彼らを観ることが出来るという話のようだ。地元関係者も自然環境保護と観光産業振興の新しい見地から乗り気であると聞いている。それが現実となったら嬉しいな。クロツラヘラサギのユニークな顔と周防大橋周辺を舞い飛ぶ彼らの白い姿を想うかべた。

山口湾には、クロツラヘラサギのほかにも多くのカモ類をはじめズグロカモメやチュウシヤクシギなども飛来する。将来的にはラムサール条約に登録も可能？なんて、夢は周防大橋の上で五月の風と日光に晒されながら果てしなく膨らむ。(土×土)